

**生物多様性地域戦略策定の手引き（案）に対する  
パブリックコメント実施結果 概要**

「生物多様性地域戦略策定の手引き（案）」について、平成21年7月27日（月）から8月27日（木）までの間、国民の意見を伺うパブリックコメント手続きを実施。個人及び団体からの意見提出数は10件で、延べ意見数は65件。うち41件について本文に反映。

1. 提出意見の属性内訳

男性	女性	団体	不明	重複	合計
4	0	6	0	0	10

郵送	ファックス	メール	合計
0	2	8	10

2. 意見（65件）の分野別件数（\*印は分野の重複を含む）

部等	分野	件数	合計
はじめに	はじめに	6	6
第1部	第1部の構成	2	17
	1.1 なぜ、生物多様性の保全・持続可能な利用が重要なのか？	8	
	1.2 “生物多様性”とは？	4	
	1.3 国内外の動向	3	
第2部	2.1 生物多様性地域戦略の要件等	7	12
	2.2 生物多様性地域戦略の構成	3	
	2.3 生物多様性地域戦略の策定・推進・進行管理の概要	2	
第3部	第3部の構成	1	8
	3.1 参加・連携等に関する考え方	3	
	3.2 策定過程における参加・連携等の手法	4*	
第4部	4.1 現状と課題の整理	2	14
	4.2 生物多様性地域戦略の対象区域、目標等の設定	3	
	4.3 施策の立案・体系化	2	
	4.4 推進体制の検討	4	
	4.5 進行管理の仕組みの検討	3*	
参考資料	3. 生物多様性に関する法律の概要	1	4
	4. 生物多様性地域戦略等の事例	3*	
全般	国の支援措置	2	6
	国の積極姿勢	1	
	工程	1	
	見直し	1	
	英訳作成	1	
その他	その他	1	1

No	部等	分類	頁	ご意見の概要	意見数	ご意見への対応方針
1	はじめに	はじめに	1	<p>●【手引き策定の背景】について。</p> <p>生物多様性基本法 21 条の 2 項（多様な主体の連携及び協働並びに自発的な活動の促進等）において政策形成への民意の反映については、地方公共団体も同様に十分な配慮が求められている。この点も「はじめに」の中で言及すべきである。</p>	1	<p>御指摘を踏まえて、下記文章を「3. 1」の 11 行目の後に追記しました。</p> <p>「特に、生物多様性基本法第 21 条第 2 項で政策形成への民意の反映等が求められており、地方公共団体においてもこの点を留意する必要があります。」</p>
2				<p>地域戦略は単に第 9 回の決議として言及するのではなく、そもそも生物多様性国家戦略が生物多様性条約の締結から誕生したことを明記すべきである。</p>	1	<p>ここでは、本手引き利用者がわかりやすくするために生物多様性地域戦略の策定に直接関係する法と第三次国家戦略について記述しています。御指摘の内容については「1. 3」で記述しています。</p>
3				<p>政策形成に民意を反映する為にどうあるべきかを考えた場合、「生物多様性ちば県戦略」の策定プロセスが明記されているものの、市民参加の仕組みがビジュアル的に分からない。どのような形で市民参加ができるのかなど、計画策定プロセスをポンチ図等でわかりやすくすべき。</p>	1	<p>御指摘を踏まえて、「3. 2」の庁内関係部局と調整するための主な手法の例（表）の次の文章を下記のとおり修正しました。</p> <p>「生物多様性地域戦略の策定に際しては、生物多様性基本法第 27 条で準用する同法第 21 条 2 項等の趣旨も踏まえ、「連携」、「協働」の一つの方法として、地域戦略の策定段階で民意を積極的に反映するために、今まで述べてきたような参加・連携等の手法を各段階で組み合わせていくことが想定されます。」</p>

No	部等	分類	頁	ご意見の概要	意見数	ご意見への対応方針
4			1	<p>●【手引きの目的】について</p> <p>生物多様性基本法第3条には5つの基本原則が掲げられているが、他の4つの基本原則は盛り込まないのか。</p>	1	基本法の5つの基本原則については、「2. 1」で記述しています。
5				<p>「……を策定する際に参考となるような技術的な情報を示すことを通じて……」となっているが、「技術的な情報」ではなく「基本的な情報」とすべきである。</p>	1	御指摘のとおり修正しました。
6			1	<p>●【手引きの対象】について</p> <p>「本手引きは、主に、都道府県・市町村の実務担当者を対象としています。」とされているが、地域の幅広い関係者（市民、団体、企業など）も本手引きの対象と捉え、位置づけるべきである。</p>	1	<p>生物多様性地域戦略は、多様な主体の連携、協力、協働のもとで策定されるべきですが、策定の主体はあくまでも地方公共団体であり、本手引きは地方公共団体実務担当者の策定作業の一助とするために作成しています。</p> <p>なお、地域住民等にとっても有用な情報が含まれていることから、御指摘を踏まえて下記を追加しました。</p> <p>「また、地域の幅広い関係者にとっても地域の生物多様性を考えるための参考となる情報が含まれています。」</p>
7	第1部	第1部の構成	2～12	第1部の前文として、6頁から7頁に記載されている日本における3つの危機及び世界の状況に関する記述を配置すべきである。問題点の指摘がないと、例えば後段で出てくる外来種対策の意味は理解されないであろう	1	<p>はじめに生物多様性の重要性についての説明がないと、問題点についても認識されづらいためこのような構成にしています。</p> <p>なお、御指摘を踏まえて、「1. 1 (1)」の最終文を下記の</p>

No	部等	分類	頁	ご意見の概要	意見数	ご意見への対応方針
8			2 ～ 12	う。  「1. 3」の記載は、手引きの最初の方に配置しておくべきである。日本の置かれている現状を踏まえて国は何をするのか、都道府県・市町村は何をすべきかが文脈上適切である。	1	とおりに追加しました。  このように生物多様性は私たちのいのちと暮らしを支え、様々な恵みをもたらしてくれる、私たちにとって非常に重要で意義深いものですが、1.2の「(2) 日本における生物多様性の危機」及び「(3) 世界の生物多様性の状況」で後述しているように、様々な危機に瀕している状況です。  同上
9		1.1 なぜ生物多様性の保全・持続可能な利用が重要なのか	2～ 4	● (1) 【生物多様性の保全・持続可能な利用の意義】について  「地域固有の財産として地域独自の文化の多様性をも支えています」とあるが、これは生物多様性基本法前文に記述されていることを明記すべきである。	1	巻末に参考資料1として生物多様性基本法を掲載しました。
10			5	● (2) 【なぜ生物多様性地域戦略が必要なのか】について  国際性、または、国際的に求められているという記述を加えるべきである。	1	国際的な状況については、「1. 3」で説明しています。

No	部等	分類	頁	ご意見の概要	意見数	ご意見への対応方針
11				「生物多様性に関する取組に事業者や市民をどう参画させるか」とあるが、トップダウン的な考え方でナンセンスな記述である。	1	御指摘を踏まえ、「・・・事業者や住民等多様な主体とどのように連携し、協働を図るか、」に修正しました。
12				「教育・学習・体験の推進・・・」の記述の前に、生物多様性基本法第24条（国民の理解の増進）に言及すべきである。	1	第24条は国の施策について説明したものですので、ここでは言及せず、巻末に参考資料1として生物多様性基本法の全文を掲載することとしました。
13				地域戦略策定の意義は、地域特性に差があるためだけではなく、地方自治体の積極的な行動を促すためでもある。そのため、「なぜ生物多様性地域戦略が必要なのか」の最終行に「また地方自治体に関連各分野の施策に積極的に取り組むことによって、生物多様性保全やその持続可能な利用に大きな役割を果たすことができます。」と追加することを提案する。	1	御指摘のとおり当該文を追記しました。
14			5	●(2)【様々な分野が関係する】の部門の例示について対象関係部局の記述が狭すぎる。教育の分野や道路整備の部門も含め、すべての部局が関係する問題であることを明記すべきである。	1	御指摘を踏まえ、教育分野について追記しました。道路整備部門は社会資本整備部局に含まれます。
15			6	●(2)【より良い地域社会の実現につながる】について地域であるからこそできる事柄と市民参加を強調し、	1	御指摘を踏まえて、「生物多様性への取組を、・・・積極的に

No	部等	分類	頁	ご意見の概要	意見数	ご意見への対応方針
				<p>それが地域づくりにつながることを強調するべきである。</p> <p>「生物多様性への取組を、・・・積極的に活かしていくことが考えられます。」の一文は「地域のニーズや人々の意見により合致し、人々の参画を得て地域戦略をつくり、行動することが、社会・経済と自然が調和する地域づくりにつながります。」に差し替えることを提案する。</p>		<p>活かしていくことが考えられます。」を「地域における様々な主体が関わり合って地域戦略をつくり、行動することが、社会経済活動と自然が調和した魅力あふれる地域づくりにつながります。」に修正しました。</p>
16		1.1 及び参考資料 4	5 71	<p>●コウノトリの野生復帰を事例として記載していることについて</p> <p>コウノトリの在来個体群は絶滅しており、系統の異なる日本に定着していない大陸系のコウノトリを輸入・増殖して日本の野に放鳥することを良い事例として記載することには、生物の種内変異の保全、生態学及び健全な環境教育を進める上で問題がある。「例えば、兵庫県豊岡市では、コウノトリ・・・それが地域の活性化などにもつながっています。詳細は、参考資料 4（事例 4）兵庫県豊岡市を参照」及び参考資料 4（事例 4）の全文の削除を提案する。</p>	1	<p>コウノトリの放鳥については、御指摘の内容についても地域において議論されています。その結果、遺伝系統の解析結果から、遺伝系統としては絶滅した豊岡の個体群は、ロシアや中国の個体群とほとんど違いがないと判断され、その結果放鳥の計画が推進された経緯があります。従って、本手引きにおいて取組事例として記載しています。</p>
17		1.2 “生物多様性”とは？	7	<p>●【(2) 日本における生物多様性の危機】について</p> <p>全ての地方公共団体において生物多様性保全等に関して十分に認識されるかは疑問。また、いわゆる 201</p>	1	<p>2010 年目標と世界の生物多様性の評価の状況については、「1. 2(3)世界の生物多様性の状況」で言及しています。</p>

№	部等	分類	頁	ご意見の概要	意見数	ご意見への対応方針
18			7	<p>0年目標は現時点での我々の課題を認識する上で重要だが、言及がない。</p> <p>そのため、生物多様性の損失が現在も進行している状況を端的に指摘し、わが国においても当面早急にこの損失速度を顕著に減少すること（2010年目標）が求められていること、そのために地域戦略策定・実施が必要であることを強調する必要がある。</p> <p>地域戦略策定のベースにするものは、既存法だけでなく、地域のこれまでの経験（行政の反省も含めたレビュー）であるべき。</p> <p>（例）「(2) 日本における生物多様性の危機」→地方行政がこのような危機の構造にどのように関与しているのか、独自にレビューする部分が必要ではないか。</p>	1	<p>御指摘を踏まえて、「4. 1 (1)」11行目に下記文章を追加しました。</p> <p>「例えば、第1の危機との関係で、過去の開発や乱獲によって損なわれた環境や影響の程度を明らかにすることで、今後積極的に保全・再生していくべき自然環境を検討するための基礎情報としたり、第2の危機との関係では、地域の二次的な自然の管理の歴史を整理し、守るべき種や望ましい管理の方法を検討するための参考にしたり、また、第3の危機との関係では、生態系等に影響を及ぼす外来種の侵入や定着の状況に関する情報を整理して、重点的に侵入防止のための監視を行うべき種を定めたり、既に侵入した種について重点的に対策を行う場所を定めることなどに活用していくということが考えられます。」</p>

No	部等	分類	頁	ご意見の概要	意見数	ご意見への対応方針
19			7	危機の構造だけでなく、損失など経済的指標を追加した方が担当者の理解や関係部局への説明により効果的になる。 (例) 農業農村の多面的機能のように貨幣換算するなど。	1	御指摘を踏まえて、「1. 1 (1)」の最終文の後に例として日本のサンゴ礁の生態系サービスの経済評価の試算結果についての図表を挿入しました。
20			8	●【ミレニアム生態系評価】について 「生態系サービスに注目し、生物多様性と人間生活との関係をわかりやすく示しています」とあるので、図示するなどして、代表的な24の生態系サービスについて手引きに示してはどうか。	1	御指摘のとおり「1. 2 (3)」に追記しました。
21		1.3 国内外の動向	11	●【(1) 国際的な動向】について 日本が議長国となり開催されるCOP10へ言及がない。また、2012年までホスト国の責務は続くことも周知されるべきである。	1	御指摘を踏まえて、「1. 3 (1)」最終行に下記文章を追記しました。 「また、COP9の中で2010年10月のCOP10が愛知県名古屋市で開催されることが決定しました。2010年は2010年目標(1.2 (3) GBO2の項参照)の達成状況の評価を行う年であることから、その検証やポスト2010年目標等についても議論される節目の会議となります。開催国・議長国である日本は国際的なイニシアティブを発揮することが求められており、議長国としての責務は次の締約国会議、COP11(2012年)まで続くこととなります。」



№	部等	分類	頁	ご意見の概要	意見数	ご意見への対応方針
22			12	<p>●【(3) 求められる地域の対応】について</p> <p>COP9 の決議は、各国での地域戦略遂行にも重要なものであり、その内容説明の追加が必要である。</p> <p>第2段落「2008年5月に開催された・・・参加促進決議では」の後に、「都市・地方政府が、都市の開発計画や土地利用、消費者への啓発等の活動において大きな役割を果たし、国家や条約の生物多様性の目的達成に貢献することが認識され」を挿入し、この節全体を「第1部1.3(1)国際的な動向」の最終行に移すことを提案する。</p>	1	御指摘を踏まえ、「1.3」の構成を修正し、当該文章を挿入しました。
23				<p>すでに千葉、兵庫などで取り組まれている地域戦略についても言及されるべきである。地域が国際的な動きを、国レベルを経ずに取り入れている動きも現に存在しているのであり、国が適切な戦略、制度、政策を策定しているとは限らないため、「地域戦略」は国の戦略が降りてきて行われるものであるような感覚を避ける記述が必要である</p>	1	<p>御指摘を踏まえ、「1.3(2)の最終行に下記文章を追加しました。</p> <p>「このような状況の中、平成21年3月末現在で既に千葉県、滋賀県、愛知県、埼玉県、長崎県、兵庫県等で策定されており、その他の地方公共団体においても策定が進められているところがあります。」</p>
24	第2部	2.1生物多様性地域戦略の要件等	15	<p>●【(3) 生物多様性地域戦略の策定等】について</p> <p>「生物多様性に関する問題は」とあるが、「問題」は、不適切な表現。「生物多様性の保全は」とすべきである。</p>	1	「保全」だけでなく「持続可能な利用」も対象としていますので、両者を総合的に捉えて「問題」という単語を使用しています。

No	部等	分類	頁	ご意見の概要	意見数	ご意見への対応方針
25			15	<p>推進段階で、市民や事業者を混乱させないため、また無駄な経費を抑え、実質的な資金を効果的に使うためには、できるだけ役割分担等をあらかじめ示しておく方が良いと考える。</p> <p>最終行に「またこの際には、都道府県や市町村の役割をなるべく明確にし、施策の整合性や重複性の排除などに配慮しておくことが必要です」を追加することを提案。</p>	1	御指摘を踏まえ、本文を「3. 3」の2行目に挿入しました。
26			16	<p>●【地域戦略の要件】について</p> <p>囲み文章の下の記述について、「目標」は、計画のスケジュールと具体的な数値目標を指していることを明記すべき。でなければ要件を満たさない戦略の乱立を招く。</p>	1	「目標」は御指摘のような事項のみを指すものではありません。
27				<p>行動の基礎には現状把握が必須であり、現状と課題の整理を促すべきである。囲み文章の下4行目の「・・・現状と課題が整理されると思われます。」を、「・・・現状と課題の整理が必要です。」にすることを提案。</p>	1	御指摘のとおり修正しました。
28				<p>生物多様性への配慮を様々な分野に取り入れるためにも、関連分野を例示するべき。</p>	1	様々な行政分野が関連する取組については、地域により様々ですが、「1. 1 (2)」の中で例を紹介しています。

№	部等	分類	頁	ご意見の概要	意見数	ご意見への対応方針
				<p>囲み文章の下 5 行目の「第 1 部 1. 1 で述べたように、地方公共団体の様々な行政分野の・・・」の「・・・述べたように、」の後に、「緑地保全や自然再生、ヒートアイランド対策等」を挿入することを提案。</p>		
29		2.1 及び 4.5	16 43	<p>●「国家戦略」と「地域戦略」の関係について</p> <p>生物多様性保全という共通の目標を見据え、その目標を達成するための国と地域のベストな関係はどのようなものであるかを考えることが重要である。「生物多様性地域戦略」が持つべきである「国家戦略」に対するフィードバック的機能／役割に関する議論／説明が非常に弱い。</p> <p>(例) 16 ページの「生物多様性地域戦略で定めるべき事項」では「地域戦略」は、「国家戦略」に対してフィードバック的機能／役割を持ってないと解釈されてしまうのではないか。</p> <p>(例) 43 ページの「4.5 (2) 見直し (Action)」について</p> <p>→「地域戦略」が「国家戦略」に対してフィードバック的機能／役割を持つのかは、言及されていない。</p>	1	<p>生物多様性基本法では生物多様性地域戦略は国家戦略に基づき策定されると規定されているほか、生物多様性国家戦略は地域の生物多様性の状況（地域戦略の策定、各施策の実施等を含む）を踏まえて見直しが行われています。</p>

No	部等	分類	頁	ご意見の概要	意見数	ご意見への対応方針
30			17 ～ 19	<p>●【(4) 地方公共団体の施策】について</p> <p>ただ単に生物多様性基本法の対象条文を抜粋し切り貼りしただけであり、意味がない。各条項の記述が何を意味しているのか明記すべきである。</p>	1	<p>御指摘を踏まえ「2. 1 (4)」には生物多様性基本法の当該条文の概要を紹介し、条文は巻末に掲載しました。また、冒頭部分を以下のように修正しました。</p> <p>「上記の『前節に定める国の施策』については、第14条から第26条に述べられています。下記にその概要を紹介します。(詳細は、参考資料1 生物多様性基本法を参照)」</p>
31		2.2 生物多様性地域戦略の構成	23	<p>●行政区域をまたがる河川、山地などへの配慮について。</p> <p>事業活動が河川の流域や山地などの行政区域をまたがって行われる場合が多く、地方公共団体ごとに「目標」、「施策」の設定が異なれば一貫性・整合性に欠けることが懸念される。「関係する地方公共団体同士で協議し、できるだけ整合性のとれたものとすべき」ことを盛り込んでほしい。</p>	1	<p>御指摘を踏まえ「3. 1」の最後に下記文章を追加しました。</p> <p>「さらに、この際、都道府県と市町村、隣接する地方公共団体等の相互の地域戦略の整合性にも留意が必要です。」</p>
32				<p>15頁の「生物多様性地域戦略の策定等」で、「生物多様性に関する問題は河川の……無関係な区域をまとまり」と明記されている。同様の趣旨を23頁にも記述すべきである。</p>	1	<p>当該箇所は、地域戦略の構成に関して説明しているもので、区域に対する考え方の説明は原案のとおりとします。</p>

No	部等	分類	頁	ご意見の概要	意見数	ご意見への対応方針
33			24 ～ 25	<p>●「生物多様性地域戦略の構成」の例示について</p> <p>例1に比べて、例2、例3がきちんと考察され、作成されているとは思えない。提示する例のバランスを考え、例2、例3をもう少し詳細に作成すべきである。</p>	1	御指摘を踏まえて「2. 2」の例2、例3を修正しました。
34		2.3 生物多様性地域戦略の策定・推進・進行管理の概要	26	<p>●フロー（図）について</p> <p>「見直し」を「Action」としているのは、文脈からも、「Action」という言葉の一般的な使用法からみても、違和感がある。もっと適切な言葉を選ぶべきである。</p>	1	通常、計画管理の手順でよく使われる用語を用いていますが、御指摘を踏まえて、「見直し・改善」に修正しました。
35				<p>生物多様性基本法第10条（年次報告等）で定められた国の環境白書と同様、都道府県の環境白書への反映をフローの一部に加えるべきである。</p>	1	御指摘を踏まえて、「4. 5」上から3行目に下記文章を追加しました。 「都道府県版・市町村版環境白書への反映、都道府県版・市町村版生物多様性白書の作成も有効な手段の一つです。」
36	第3部	3.1 参加・連携等に関する考え方	27	<p>●地方公共団体の政策における地域戦略の位置づけについて</p> <p>地域戦略策定過程において「関連する計画や施策を所管している部局との調整」を規定しているが、「調整」のみでは不十分であり、調整のうえ政策の根幹に生物多様性保全等の原則が貫徹されることが求められていることをさらに強調する必要がある。</p>	1	地域戦略の策定から施策の実施まで関係部局との連携、役割分担を得て行うこととしています。関係部局との十分な調整を経て地域戦略に明確に位置づけることで、生物多様性地域戦略を基本として、様々な社会資本整備が実施されることとなります。

No	部等	分類	頁	ご意見の概要	意見数	ご意見への対応方針
37			23	各主体が持つ能力や可能性だけでなく、その役割や能力の限界や問題を把握することの重要性について、「考え方」において言及すべき。主体の能力の適切な把握なしでは、実現可能性の乏しい戦略になってしまう。	1	御指摘の事項はいずれも戦略の策定段階での関係者の十分な関与を確保することによって、把握・調整がなされることが期待されます。
38		3.1及び3.2	27 30	<p>●行政区画を超えた共同策定について</p> <p>生態系の連続性、重要地域間のネットワーク化等の観点から、共同策定を促すことは非常に重要である。「3.1 参加・連携等に関する考え方」で、策定による利点、重要性等を記述し、共同策定を促すようすべき。さらに、「(旧)3.3 庁内関係部局との調整の主な手法の例」で、都道府県間、市町村間、県と市町村間等での調整に関する情報を提供することが実務的に必要である。</p>	1	<p>御指摘を踏まえ、行政区画を超えた協働策定の考え方について、「2. 1 (3)」に追記しました。</p> <p>「例えば、河川の流域、島嶼群、半島、山地など、生物多様性の観点から一定のまとまりを有する地域について、隣接する地方公共団体が共同して戦略を策定することで、情報共有や合意形成が効率的に図られ、地域全体として統一的な方向で生物多様性に関する取組を進めやすくなるといった面も期待できます。」</p>

№	部等	分類	頁	ご意見の概要	意見数	ご意見への対応方針
39		3.2 策定過程における参加・連携等の手法	28	<p>生物多様性基本法の第21条（多様な主体の連携及び協働並びに自発的な活動の促進等）に基づく考え方であることを明記すべきである。</p>	1	<p>御指摘を踏まえ、「3.2」冒頭において法第21条を引用し、以下の文章を挿入しました。</p> <p>「生物多様性基本法第21条第1項では、国は『関係省庁相互間の連携の強化を図るとともに、地方公共団体、事業者、国民、民間の団体、生物の多様性の保全及び持続可能な利用に関し専門的な知識を有する者等の多様な主体と連携し、及び協働するよう努めるものとする。』と規定されています。生物多様性地域戦略の策定過程等においても多様な主体の参加・連携を推進することが期待されます。（詳細は参考資料1 生物多様性基本法を参照）」</p>
40		第3部の構成	28～31	<p>●第3部3.2以降の項目立てについて</p> <p>（旧）3.2「多様な主体の参加・連携の主な手法」の内容は、策定過程での参加・連携手法で、実施過程等を含んでいないために、タイトルの変更および全体の整合性を高める必要がある。</p> <p>3.1「参加・連携等に関する考え方」、3.2「策定過程における参加・連携等の手法」（このなかに（旧）3.3「庁内関係部局との調整手法」も入れる）、3.3「推進・進行管理における参加・連携のあり方」の3部構成とし、「策定過程における庁内関係部局との調整手法」には、例示を加えることを提案。</p>	1	<p>御指摘のとおり修正しました。</p> <p>なお、庁内関係部局の調整手法については「3.2」で記述しており、さらに、千葉県の事例を記載しています。</p>

No	部等	分類	頁	ご意見の概要	意見数	ご意見への対応方針
41		3.2 策定過程における参加・連携等の手法	30	より徹底した、すべての政策立案と実施に同戦略の視点がとりこまれるような体制をつくるような指針を示すべきである。特に開発事業についてそれが行われるように強く要求する。	1	御指摘の件については、「庁内関係部局と調整するための主な手法の例」の「メリット」で「策定後の推進・進行管理の段階における庁内体制の構築につながり得る」と記載しています。策定段階から関係部局が参加することで、それぞれの施策に地域戦略の視点を取り込まれるものと考えられます。
42				庁内関係部局との調整手法の参考事例がほしい。	1	調整手法については、「3. 2」で記載しています。
43	第4部	4.1 現状と課題の整理	32 ～ 35	多様な自然は、その価値を正しく見積もれば、重要な経済的な資産とも評価できるという視点の呈示をされたい。生物多様性がもたらす経済価値は往々にして過小評価され、生物の多様性の保全やそのための支出が投資的効果を有することを正しく評価されないことがある。生物の多様性を保全する上で、この誤りは正されなければならない。地域戦略にこのような視点を導入することは、その策定・実施等について地域におけるインセンティブとなりうるものとする。	1	御指摘を踏まえて、「1. 2 (3) 世界の生物多様性の状況」の末尾に「生態系と生物多様性の経済学 (The economics of ecosystems & biodiversity)」(TEEB) の状況を紹介することとしました。



№	部等	分類	頁	ご意見の概要	意見数	ご意見への対応方針
44			32	<p>●【(1) 地域における生物多様性の捉え方と課題の整理】について</p> <p>「地域戦略」策定には、制度づくり、政策立案、モニタリング、評価、全ての過程に住民参加を義務づける手続きを「基準」として例示すべきである。</p> <p>「4. 1 (1)」で記載されているヒヤリングを行う専門家等の中には、環境 NGO/NPO、特に市民、地域住民（それも地域のボス的な人ではなく）が含まれる必要がある。ヒヤリングに当たっては市民の誰でも参加する機会が得られるような、積極的な行政の働きかけが必要である。</p>	1	<p>生物多様性地域戦略については、生物多様性基本法第 13 条第 2 項に定める事項が要件となっており、その他に国が基準や義務等を定めるものではありません。</p> <p>なお、幅広い関係者から意見を聞く方法については、「3. 2」の表でそのメリットと併せて説明しています。</p>
45		4.2 生物多様性地域戦略の対象区域、目標等の設定	36	<p>●【(1) 対象区域等の設定】について。</p> <p>都道府県による広域的戦略策定のため、山・河・海の一連の物質循環という視点から、どのように対象区域や目標等の設定をしたらいいか、もう少し示してもらいたい。</p>	1	<p>御指摘と他の御意見を踏まえ、「2. 1 (3)」に広域的な視点からの考え方として追記しました。</p> <p>「例えば、河川の流域、島嶼群、半島、山地など、生物多様性の観点から一定のまとまりを有する地域について、隣接する地方公共団体が共同して戦略を策定することで、情報共有や合意形成が効率的に図られ、地域全体として統一的な方向で生物多様性に関する取組を進めやすくなるといった面も期待できます。」</p>

No	部等	分類	頁	ご意見の概要	意見数	ご意見への対応方針
46			36	<p>●【(2) 目標の設定】について</p> <p>文章だけでは、生物多様性保全・持続可能な利用に関する目標を、地域の多様な主体が共有することは困難。</p> <p>また、生物多様性基本法（案）策定過程では、生態系ネットワーク目標図の作成を促進するという意図で「目標」について言及することになったという経緯がある。目標の検討、設定にあたっては、地域の将来イメージを視覚的に捉えることのできる図の提示をあわせて行うことが重要。</p> <p>「(2)目標の設定」の4行目と5行目の間に、「目標の検討・設定にあたっては、様々な関係部局、研究者、NGO/NPO、事業者、市民等の参加・連携のもとに、地域の将来像として、地域レベルの生態系ネットワークを具体的に図化することが重要です。」という一文の追加を提案する。</p>	1	御指摘を踏まえて、「4. 2 (2)」の4行目の下に、「また、当該区域における望ましい姿として、地域レベルの生態系ネットワークを図化して示すことも有効な手段です。」を追加しました。
47			36 ～ 37	<p>地域住民からより多くの共感を得、より参画をしてもらうためには、保全と持続可能な利用のみを目標とするのではなく、その先にある、豊かな地域社会の実現の度合い（活性度）を図る指標や目標の設定が重要。目標設定</p>	1	御指摘を踏まえ、「3. 1」の7行目に「また、より多くの主体と目標を共有するために、こうした取り組みによる豊かな地域社会の実現を目標設定の際の視点として考慮することも考えられます。（目標設定については4.2参照）」という文を追加し

No	部等	分類	頁	ご意見の概要	意見数	ご意見への対応方針
				の重要な観点として記載すべきである。		ました。
48		4.3 施策の立案・体系化	38 ～ 39	どのような法令・条例の見直しを実施するのが望ましいのか、あるいは法令に基づき策定される各種の国・地方計画を見直すのが望ましいのか、を具体的に示してはどうか。	1	法令や条例の見直しについて特に規定するものではありません。関連する代表的な法令や計画の例として、参考資料4に掲げた法令やこれらに基づく計画があることを明示しました。
49				内容を充実させることを要求したい。地方自治体の「施策の性格の違い」や、「地域特性に応じた優先順位」から生じる問題への対処／解決法についてある程度の方向性を示すことは非常に重要。少なくとも前例を具体的に示すことが必要である	1	御指摘を踏まえて、「都道府県での広域的な観点での施策」および「地域特性に応じて優先順位も考慮したきめ細かな施策」の方向性として考慮すべき内容を「4. 3」に例示しました。 「広域的施策」・・・市町村の行政区画に捉われない地域の生態系の保全（山地、海岸、流域など）、生態系ネットワークを考慮した地域外との連携（山地、海岸、流域など）、市町村間の総合調整的な観点など 「地域特性に応じた施策」・・・周辺市町村等との連携、地域社会の特徴（経済、コミュニティ、地形など）を踏まえた取組みの策定、住民とのコミュニケーション、住民参加の促進、地場産業の活性化など
50		4.4 推進体制の検討	39 ～ 40	研究者や地域ボランティアによるフィールド調査結果の収集解析や、人材育成の拠点として、地域の博物館をネットワーク化し、機能強化を図ることが地域戦略の推進を支える基盤となる。その仕組み作りの重要性を強	1	御指摘を踏まえて、「4. 4」の9行目から下記文章を挿入しました。 「生物多様性地域戦略の効果的な推進を図るために、研究者や地域ボランティア等による調査・解析を実施したり、それに

No	部等	分類	頁	ご意見の概要	意見数	ご意見への対応方針
51				調すべき。  「行政、地域住民、事業者、NPO/NGO 等の様々な主体との協働による事業を行う際…」とあるが、具体的な協働活動事例紹介が望まれる。	1	携わる人材の育成の場として地域にある博物館やビジターセンターを拠点施設として有効活用することも推進体制の強化策の一つとして考えられます。また、  「4. 4」に、環境省が実施している生物多様性保全支援事業の概要を掲載しました。
52			39 ～ 40 ほか	●用語の整理について 「NPO/NGO 等」という表記と、「NPO 等」という表記が混在している。	1	御指摘を踏まえ、「NPO 等」に統一しました。
53			42	●囲み記事「モニタリングについて」について 4.5 進行管理の仕組みの検討の項に入れることを提案する。	1	御指摘のとおり修正しました。
54		4.5 進行管理の仕組みの検討	43	●(2) 見直し (Action) について 地域戦略の見直しのみならず、関係する条例の見直しについても対応する旨、記述すべきである。既に自然公園法および自然環境保全法が改正され、連動して都道府県の条例も改正されることから、関係する条例の見直しは不可避である。	1	「見直し」の中には、状況に応じて条例等の見直し等地域戦略に位置づけた様々な施策の見直しが含まれると考えられます。

No	部等	分類	頁	ご意見の概要	意見数	ご意見への対応方針
55				計画、実行、点検、評価、見直しの結果を、地域内外の関係者へ周知し、その都度意見を募ることも仕組みの中に位置づけるべきである。	1	御指摘を踏まえ、「3. 2」の冒頭を以下のように修正しました。 「生物多様性地域戦略の策定等に当たっては、計画、実行、点検・評価、見直し・改善の過程を通じ、関係する主体への周知や意見聴取等により参加・連携等を促進することが大切です。主な手法の例として、以下のようなものが挙げられます。」
56	参考資料	4.生物多様性に関する法律の概要	59～62	関連分野の法律の理解に役立つため、図（平成20年度全国エコロジカル・ネットワーク構想検討委員会資料より抜粋）（省略）を追加することを提案。	1	御指摘を踏まえて、該当図を追加しました。
57		5.生物多様性地域戦略等の事例	64～71	●（事例2）千葉県「生物多様性ちば県戦略」について 千葉県では生物多様性地域戦略策定後の取り組みも先進的（絶滅危惧種2種の回復計画策定など）。このような取り組みが地方自治体に波及することで、大きな効果が得られると思われる。「策定後の」先進的な取り組み事例として紹介して頂きたい。	1	御指摘を踏まえ、千葉県の事例に追記しました。
58				研究者の参画をより円滑に進める一例として、千葉県が周辺6大学と締結した生物多様性に関する協定書を	1	同上

No	部等	分類	頁	ご意見の概要	意見数	ご意見への対応方針
				事例紹介に追加すべきである。		
59	全体	工程		地域戦略の内容が市民にも判るように、ロードマップを作成するよう、手引きに盛り込んでもらいたい。	1	御指摘につきましては、「2. 2」の下から4行目に「工程表」の紹介をしています。
60		国の支援措置		地域戦略策定・実施に際しては研究者やNGOの協力が欠かせず、このための人員確保や財政措置が必要である。しかし、地方公共団体の中にはこのための費用捻出や人員確保の手段を持たない場合もある。したがって、国としてもこれに対する支援措置を行うべきであり、これを手引きに盛り込むことが相当である。	1	地域の活動支援については、環境省としても生物多様性保全推進支援事業等により、取組の支援を行っていますが、地域戦略の策定を基本とした、地域での生物多様性に関する総合的な施策の推進は重要であり、今後も地方公共団体への支援措置の強化に努めていきたいと思えます。
61		国の支援措置		地方公共団体が同戦略を策定する強いインセンティブなしに、どのようにこれを推進していくのか、今後その施策を示すことも検討していくことが必要と思われる。	1	同上
62		国の積極姿勢		国として「生物多様性の保全」を促進する積極的な姿勢が感じられない。地方公共団体の「生物多様性地域戦略策定」が義務規程ではなく、努力規程であることから、このような消極的な姿勢になっていることが考えられるが、努力規程であるからこそ、積極的な姿勢を示すべきである。	1	本手引きによって、市町村を含むできるだけ多くの地方公共団体が生物多様性地域戦略を策定することができるよう様々な方法や考え方を紹介することに努めました。御指摘のとおり、地域戦略の策定は法により努力義務規定とされており、地域の実情に応じて、地域住民等と連携を図りながら策定が進められることが期待されます。

No	部等	分類	頁	ご意見の概要	意見数	ご意見への対応方針
63		見直し		2010年10月に生物多様性条約締約国会議でポスト2010年目標が提示され、それを取り込んだ新たな生物多様性戦略計画が検討される。そのため、手引きにおいても作成の見直しに関する記述を加えるべきである。	1	御指摘の内容は「はじめに」の「○手引きの内容・性格」において既述しています。
64		英訳作成		日本の地域戦略は、どのような手順で作られたのか示すためにも、生物多様性地域戦略策定の手引きの英訳版を作成すべきである。	1	御意見として今後の参考とさせていただきます。
65	その他	その他		<p>第4章 行動計画（具体的施策）について</p> <p>人間による環境マネジメントがあたかも自然や動物の気持ちの代弁だというような表現が使われることがある。そのような発表、表現、論述はこの戦略の主旨にそぐわない。</p> <p>このような表現や発表をしてはならないという罰則規定も念頭においた監視の強化を盛り込んでいただきたい。</p> <p>第1章 戦略策定にあたって および</p> <p>第2章 生物多様性の現状と課題 および</p> <p>第3章 基本的な考え方と目標</p>	1	<p>地域に特有の動植物が外来生物によって駆逐されることは、生物多様性の危機の一つに挙げられ、深刻な問題となっています。</p> <p>このため、生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来生物については、計画的に防除の取組を進めていく必要があります。</p> <p>なお、生物多様性地域戦略は努力義務として規定されており、環境省が特定の行為を禁止したり、義務づけたりするものではありません。</p>

№	部等	分類	頁	ご意見の概要	意見数	ご意見への対応方針
				<p>について</p> <p>在来種の保護のために多くの別の命が奪われるのではないかと懸念する。在来種・外来種ともに、生きている生物にはすべて命がある。すべての命の尊厳を守ることを大前提に、どこか別の地域に移動させることを必須条件にしていきたい。環境省が主導して手引きの大前提として組み込んでほしい。</p>		